

第 1 章 人口・財政の状況

第1節 人口

1. 1. 1 人口の推移

美唄市の人口は、昭和30年代をピークに人口減少に転じ、平成27年（2015年）時点で23,783人となっています。美唄市人口ビジョン（平成28年3月）によると、平成62年（2050年）の推計人口は15,481人（対平成27年（2015年）比▲35%）であり、今後も人口が減少することが予想されます。

また、公共施設は昭和45年から急速に保有面積が増加しております。それ以前の年代では財閥系大企業が美唄市で炭鉱事業を展開していたため、これらの企業が保有する施設が市民にも開放され、公共施設に準ずる役割を果たしておりました。

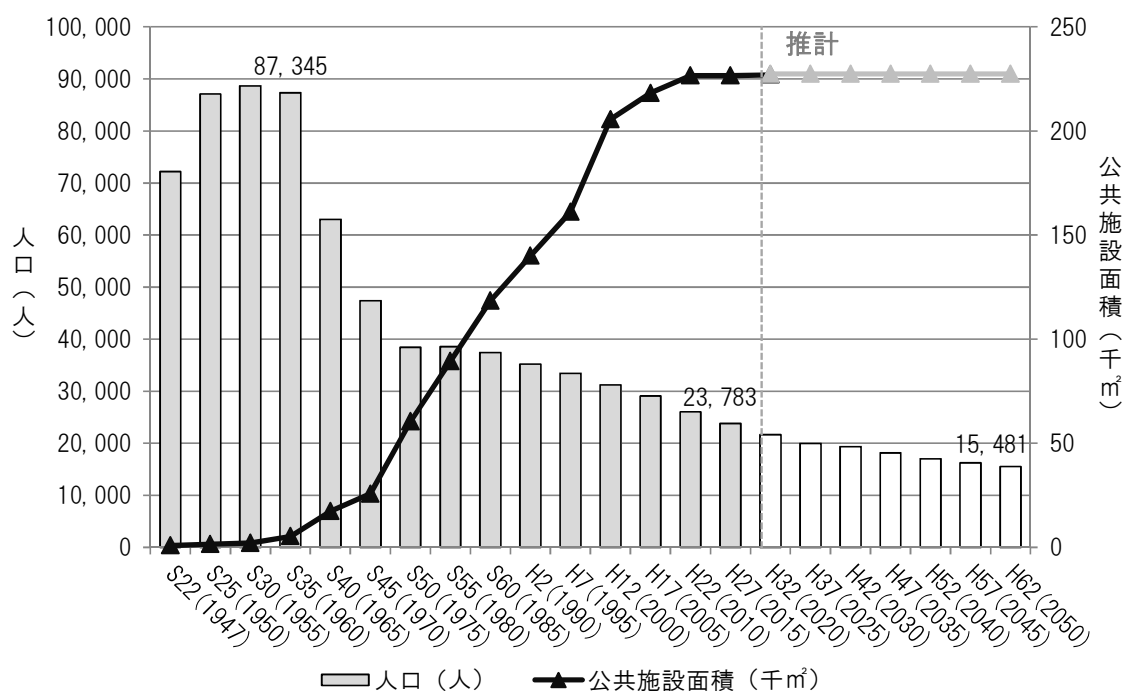


図 1. 1. 1 美唄市における人口と公共施設面積¹の推移

出典：平成22年迄は、国勢調査による

平成32年以降は、美唄市人口ビジョンによる

¹ 公共施設面積は平成27年3月末時点で現存する建物を対象とします。

1. 1. 2 年代別人口の推移

人口減少に伴い、美唄市の人口構成も変化することが予想されます。平成 27 年（2015 年）から平成 62 年（2050 年）の 35 年間で 15 歳～64 歳人口（生産年齢人口）の割合も 54%から 48%に減少することが予想されます。一方で、65 歳以上人口（高齢者人口）の割合は 37%から 39%に増加することが予想されます。

これらの人口構成の変化により、15 歳～64 歳人口（生産年齢人口）の減少による税収減と、65 歳以上人口（高齢者人口）の割合増に伴う社会保障費等の負担増が見込まれます。

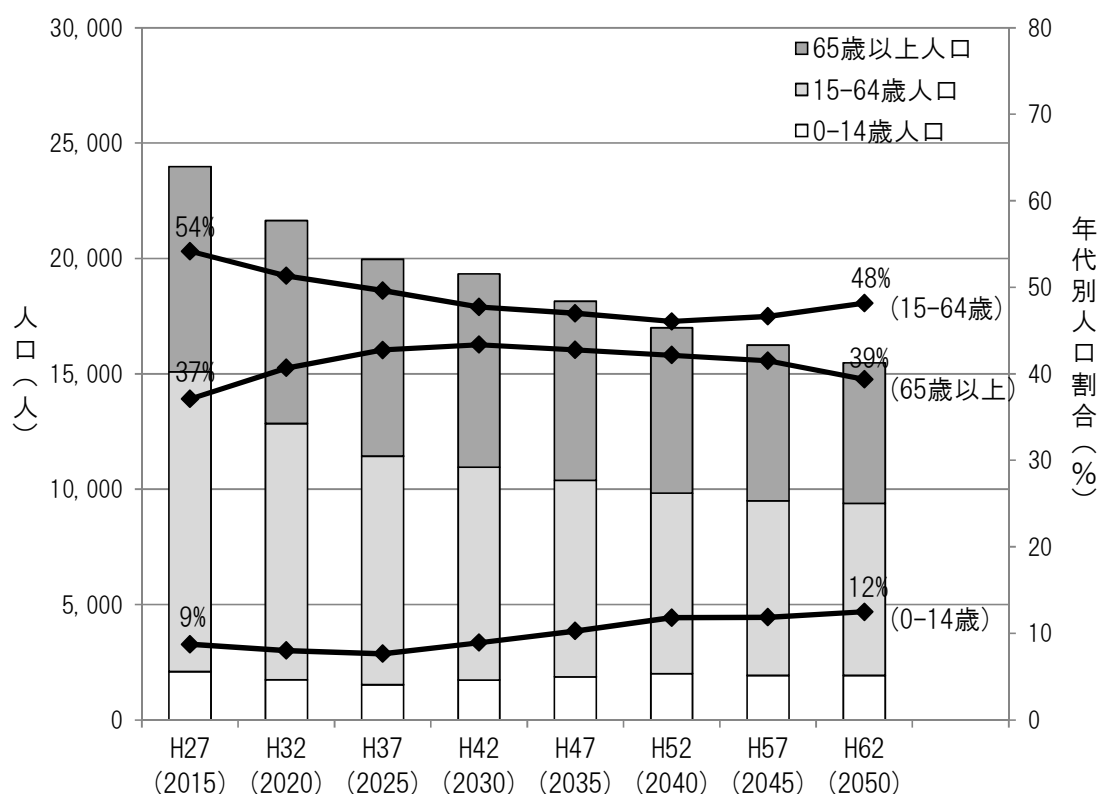


図 1. 1. 2 年代別人口と人口割合の推移

出典：平成 32 年以降は、美唄市人口ビジョンによる

第2節 財政

1. 2. 1 歳入

美唄市における歳入の状況は、平成26年度の総額が約173億円であり、その内訳は、地方税などの一般財源が約100億円と、歳入全体の58%を占めます。残りの約73億円が都道府県支出金や地方債などの特定財源であり、歳入全体の42%を占めます（平成26年度（2014年度）決算）。

今後は総人口や15歳～64歳人口（生産年齢人口）の減少に伴い、地方税などの税収も減少することが想定されます。

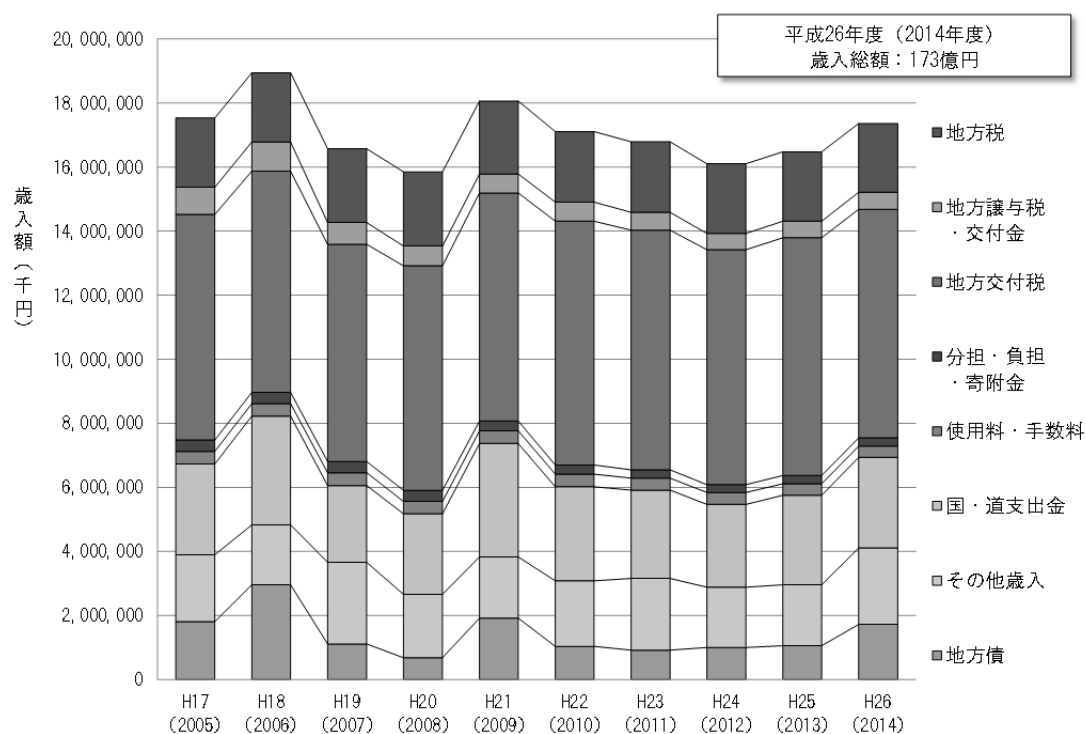


図 1. 2. 1 過去10年間の歳入²の推移

出典：美唄市決算状況（決算カード）より作成

² 歳入の「地方譲与税・交付金」は、地方譲与税、利子割交付税・配当割交付金、譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、交通安全対策特別交付金、国有提供交付金を計上します。また、「その他歳入」は、財産収入、繰入金、繰越金、諸収入を計上します。

1. 2. 2 歳出

美唄市における歳出の状況は、平成 26 年度の総額は約 171 億円であり、その内訳は人件費や扶助費等の消費的経費³が約 94 億円と歳出全体の 55%を占めます。公共施設等の整備に関わる投資的経費⁴は約 17 億円であり、歳出全体の 10%を占めます（平成 26 年度（2014 年度）決算）。

過去 10 年間の推移をみると、人件費の削減を進めた結果、平成 17 年度（2005 年度）と平成 26 年度（2014 年度）を比較すると約 22%減少しています。一方で高齢化の進行により医療費・介護費や生活保護費などの扶助費は、増加傾向にあり、平成 26 年度（2014 年度）の扶助費は平成 17 年度（2005 年度）の約 1.1 倍に増加しています。また維持管理費についても平成 17 年度（2005 年度）の約 1.4 倍に増加しています。

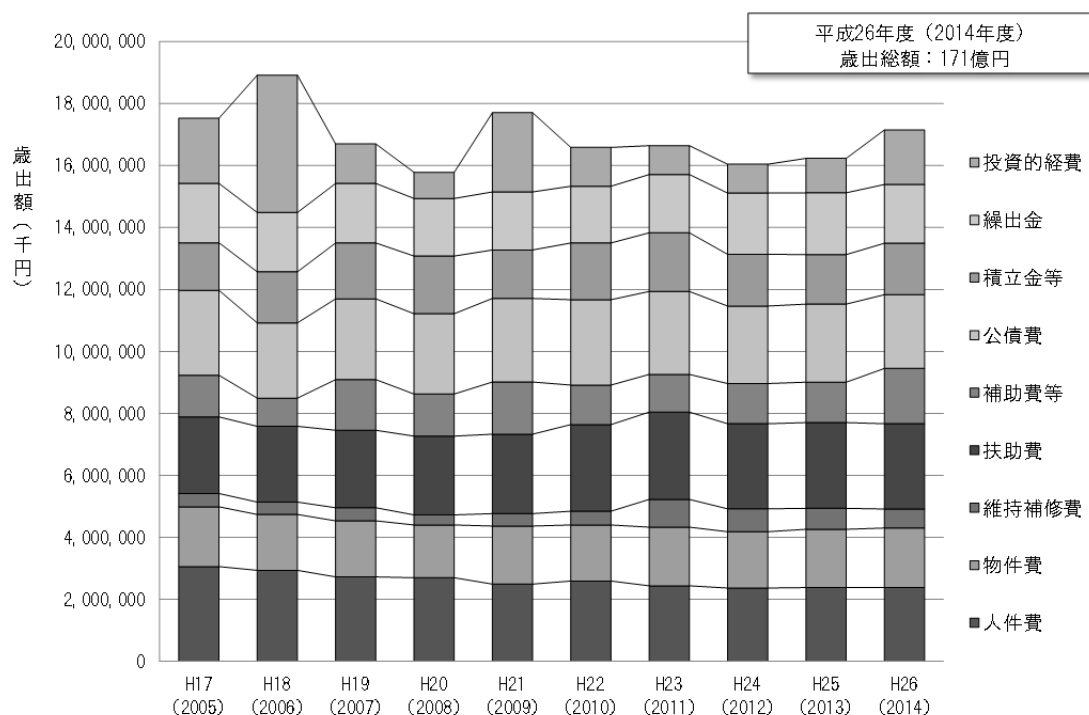


図 1. 2. 2 過去 10 年間の歳出額の推移

出典：美唄市決算状況（決算カード）より作成

³ その支出の効果が、当該年度又は極めて短い期間で終わる、言い換えれば後年度に形を残さない性質の経費です。ここでは人件費、物件費、維持補修費、扶助費、補助費を言います。

⁴ その支出の効果が資本形成に向けられ、施設等がストックとして将来に残るものに支出される経費のことです。生産的経費ともいわれ、これに分類できる性質別経費としては、普通建設事業費、災害復旧事業費及び失業対策事業費を言います。

